

- ① 次代の医療につながる臨床研究を進めています
・新年のご挨拶
- ② 専門看護師のご紹介
・教えて！この言葉「関節リウマチ」
・診療科レポート「麻酔科」
・ナディック通信
- ③ カラダと毎日のごはん
・新任のご挨拶
・病院からのお知らせ
・ミニニュース

- ・特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い
・禁煙のお願い
- ④ 日常生活を大切にしながら外来通院で、がん治療を。
・令和元年度鶴舞公開講座
・健康講座「救命に欠かせない胸骨圧迫とAED」
・ボランティアさん募集
・かわらばん HPのご案内

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

基本方針 ● 1. 安全かつ最高水準の医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。
3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市長和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーをご覧いただけます

TOPICS ① 次代の医療につながる臨床研究を進めています



名大病院は2016年に医療法に基づく臨床研究中核病院に承認されて以降、臨床研究や医師主導治験を加速させています。臨床研究の現状や今後の展望などについて、先端医療開発部の西脇聡史病院講師にお聞きしました。

日本発の医薬品や治療法の開発を目指して

臨床研究とは、将来の患者さんへより良い医療を届けるために、今の患者さんの協力を得て、新しい治療法の有効性を確かめる目的で行うものです。その中心となるのが臨床研究中核病院で、日本発の画期的な医薬品や医療技術などの開発を使命に臨床研究や医師主導治験を行っており、現在、当院を含め全国で12の病院が承認されています。

新しい薬や医療技術の有効性を調べるには、患者さんにご協力いただき多様なデータを集めることが必要です。ただ、予期しない副作用も起こりえるため、当院の先端医療開発部では、臨床試験の計画段階から内外のデータなどを広く集めて検証し、あらかじめあらゆる状況を想定して対応できる体制を整えています。また、臨床試験の安全性や正確性を保つためのチェック機能を受け持ち、研究活動をサポートしています。

細胞を使った再生医療の研究が進展

現在、当院ではさまざまな臨床研究を進めています。例えば、細胞を使った再生医療の臨床試験の中で、世界的にも注目を集めているのが小児科のCAR-T細胞療法の研究です。難治性急性リンパ性白血病の治療のために、より安価でより安全な治療法の開発を目指しています。また、泌尿器科では男性腹圧性尿失禁に対する脂肪由来の幹細胞を用いた再生治療の開発を目的に医師主導治験を行い、先ごろ有効性と安全性が確認されました。今後は保険診療を目指して準備を進めていく予定です。こうした細胞の取り扱いが専門的



で難易度が高いものですが、当院には最先端の設備が整い、人材もノウハウも充実しているため、細胞を扱う再生医療分野の研究が進んでいます。

名大病院の強みを育て名大発の医療を

臨床研究中核病院には、製薬会社では対応できない希少疾患の治療法の開発や、現在の治療の最適化を進める研究も期待されています。当院では社会のニーズに応えるとともに、今後は独自の強みを打ち出すべく、CAR-T細胞療法をはじめとする再生医療など有力なシーズを増やし、名大発の新たな医療を生み出したいと考えています。そのために情熱を持った医師を広くサポートし、これまで以上に臨床研究に力を入れていく予定です。

最後に、患者さんにお伝えしたいことがあります。今現在、私たちが受けられる治療は、臨床研究に賛同してくださった多くの患者さんの協力によって成り立っています。これまでの患者さんの想いが今の医療につながったように、皆さまの想いが次代の医療につながっていきます。

新年のご挨拶



病院長 小寺 泰弘

新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては健康やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中は日々診療やその支援に尽力されている病院関係者の皆さまに一方ならぬご協力をいただきました。心から御礼申し上げます。本年は、当院が抱える様々な課題を検証し、解決すべく、一層の努力を続けてまいります。年頭に際し、さらに気持ちを強くしております。

働き方改革への取り組みも喫緊の課題です。課題の解決に向けては、私を含むすべての職員のしっかりと意識改革が必要です。高度成長期と同じような価値観、行動パターンのままでは、この国は立ち行かないということを念頭に、本気で労働者としての自分を見つめ直し、ひとりで何かも背負い込まない仕組み、それでも患者さんに不自由をお掛けしない仕組みを皆さまと共に作り上げたいと考えております。

本年も何卒よろしくお願いたします。



事務部長 永家 清考

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお

迎えのこととお慶び申し上げます。昨年、新元号が「令和」に決まり、新しい時代がスタートする中、「働き方改革関連法（労働基準法等の改正）の施行」及び「消費税率の引き上げ（8%→10%）」という世の中のルールが大きく変更された激動の1年でした。

今年は、医療業界では大きな節目となる2025年・2040年を見据えた診療報酬改定の実施年に当たり、高度急性期・急性期医療を担う本院において、病院運営面では引き続き厳しい状況が予想されますが、職員一丸となって努めれば、必ずや乗り切れると信じております。引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。



看護部長 藤井 晃子

新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましてはさわやかな新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年5月から新元号「令和」の時代が始まりました。この「令和」には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ、という意味が込められているそうです。その年に、日本でラグビーW杯が開催され、日本代表は「ONE TEAM」を合言葉に史上初のベスト8に進みました。医療においても、患者さんを中心にご家族・医療職・介護職などの人々が「ONE TEAM」となることで、新たな医療文化が生まれることでしょう。

当院におきましても、患者さんを中心に多職種・地域連携を一層強化し、質の高い医療・看護の提供および地域医療に貢献してまいります。また、国際的な医療施設評価認証機関であるJCIの認証を取得した日本初の国立大学附属病院として、安全かつ最高水準の医療と愛（やさ）しく温かい看護を提供してまいります。

今年一年が皆さまにとりまして、幸せで実り豊かな年となりますことを心よりお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

専門看護師のご紹介

血液浄化部 慢性疾患看護専門看護師 高井 奈美

以前のかわらばん（112号）で専門看護師（CNS）の紹介がありました。CNSは日本看護協会が認定する専門資格で、臨床現場で複雑で解決困難な看護問題をもつ患者さんやご家族のために水準の高い看護を提供するための知識と技術を深めたスペシャリストです。

私の専門分野である慢性疾患看護では、経過が長く治癒が見込めない慢性疾患とともに生活する患者さん、ご家族および地域集団における生活者が対象です。慢性の病を抱える生活者は、身体症状による苦痛や機能が失われてゆく喪失感、どうにか治りたいと願うも叶わない諦め、病気になることで周囲の人々との関係の変化や自己役割の変化を体



験し、それらと折り合いをつけて生活しています。このように、疾患の管理は生活の場で行われていることを前提に、私たちは、常に患者さんに関心を寄せ、病気の体験（語り）を聴き、患者さんへの理解を深め、患者さんが継続的に日常生活に取り入れやすいセルフケア行動を獲得できるためにはどうすればよいかと考え、支援をしています。

私のCNSとしての専門分野は慢性腎臓病看護になります。主に活動している部署は、血液浄化部や内科外来で、内科外来では腎不全保存期

※1や透析、腎移植等を選択する時期にある患者さん・ご家族の療養上の相談業務を行っています。血液浄化部では、血液透析や腹膜透析を受けている患者さんの透析導入や維持期の生活支援に携わっています。

慢性腎臓病の患者さんは、たんばく尿の発現から透析療法や腎移植を受けるまでの経過が長くその人のライフスタイルとともにあります。そのため、その時期に最適な療養方法を患者さんと共に考えていきます。最近では、末期腎不全の治療（透析、腎移植等）を見合わせ腎不全保存期（※1）の継続を望む高齢者の方も多く、患者さん本人、ご家族、主治医、その他関係医療職者を含め、その人に最適な選択なのかを考える倫理調整が増えています。同様に、



透析患者さんが重度な心疾患や脳梗塞、悪性腫瘍などの併発で透析療法を中止することへの相談業務も増えています。

※1腎不全保存期：腎機能が低下しているものの腎代替療法（透析・腎移植）を受けるまでに至っていない時期

診療科レポート「麻酔科」

麻酔科長 西脇 公俊

麻酔科には3分野があります。①手術時の麻酔：手術中の患者さんを痛みや出血などから守り、体の動きを抑えて手術が安全にできるようし、全身麻酔においては意識のない状態を維持する術中の全身管理と術後の痛みを抑える治療を行っています。②手術前後の全身管理：重症な患者さんを、中央診療棟B4階にある外科系集中治療部（SCU：Surgical Intensive Care Unit）に収容し、患者さんの全身管理を主治医と協力して行っています。③ペインクリニック：術後に長引く痛みや、手術とは関係ないさまざまな痛みが主な症状となっている場合に、痛みの軽減を目的とした診療を行う分野です。帯状疱疹後神経痛や三叉神経痛など神経痛と言われるさまざまな病的痛みや、がんによる痛み、原因不明の痛み、元の病気に対



する治療で痛みが軽減できない場合など、非常に広い範囲の病気を対象として神経ブロック療法などを行っています。痛みに悩んでおられる患者さんは、一度受診いただくと何らかの痛みの軽減策が見つかるかもしれません。ただし、痛みの元になる病気に対する治療を行っている前提での治療となりますので、主治医あるいはかかりつけ医にご相談の上、紹介状を持って受診ください。

教えて！

この言葉

関節リウマチ

整形外科長/リウマチ科長 石黒 直樹

関節リウマチは免疫の異常によって手や足の関節に炎症が起きる疾患です。最初の症状は手指に起こることが多く、関節の腫れや痛みは診断基準でも重視されます。朝の手の強ばりも典型的な症状で、一時間以上続く場合は診断の材料になります。進行すると関節が破壊され、変形や痛みで日常生活に支障を来す場合もあり、早期の治療が必要です。関節炎のほかに微熱や貧血などの全身症状を伴うこともあります。三十～四十代の女性に多く発症するとされますが、最近は高齢になってからの発症が増加しています。この場合は定型的な発病とならないため注意が必要です。診断では関節症状に加え、血液検査（リウマチ因子・抗CCP抗体や炎症反応）、家族歴などを用います。リウマチ因子と抗CCP抗体が陽性反応の場合は今後発症する可能性がありますが、発病しない方も多いとされています。基本的な薬物療法などを十分に行うことで進行や炎症を抑え、障害の発生を予防することができます。今では薬剤の種類も増えて、本人に相応しい治療薬が選べる様になっています。良くならないイメージは既に過去のもので、とは言ってもやはり早期の治療が原則です。例えば手指の持続する、関節症状が現れたときには速やかに専門医に受診してください。

Nagoya Disease Information Center



患者情報センター（ナデック）では患者さん、ご家族が安心納得して医療を受けることができるよう、病気に関する書籍や資料などを準備しております。各種治療のガイドラインや閉塞性肺疾患や糖尿病などのパンフレットも多数置いてあります。また、化学療法を受ける患者さんの脱毛へのサポートとしてウィッグや帽子、乳がん手術を受けた患者さんへ専用下着やパッドなども展示しています。その他分かりやすい書籍、資料など多数展示されていますので、是非ご利用下さい。定期的に患者さん向けの勉強会も開催していますので、どなたでもご参加下さい。

【場所】中央診療棟A2階
【利用時間】平日10時～16時（年末年始及びゴールデンウィーク除く）
※勉強会等の情報については院内掲示をご覧ください。



特集 TOPICS ③

カラダと毎日のごはん♪

～名大病院の食事とメニュー紹介～

当院の栄養管理部では、「安全で満足度の高い食事サービス、治療に貢献する栄養管理」を理念に、患者さんの栄養食事指導や入院患者さんへの給食の提供などを行っています。このシリーズでは、患者さんの疾患に合わせた当院の食事のポイントや、おすすめメニューについてご紹介します。



シリーズ 4

血液透析患者さんのごはん

●疾患等と食事について

血液透析患者さんの食事療法は、「適量のエネルギーとたんぱく質の摂取」、「水分と塩分のコントロール」、「カリウムとリンの管理」などが基本となります。血液透析を受けている方の体力や健康状態を維持するには、各個人の体格や活動量に見合ったエネルギーとたんぱく質をバランス良く摂取することが大切です。また、腎障害による尿量減少や無尿のため水分摂取で容易に体重が増加することから、水分摂取量の調整は重要です。塩分は摂り過ぎると口渇により過剰な水分摂取に繋がるので6g/日未満でコントロールし、カリウムやリンは体内に蓄積されやすくなるため摂取量の管理が必要です。当院の透析食は、たんぱく質40g・1200kcal～たんぱく質70g・2200kcal(下表参照)を用意しています。通常食より水分を控え、塩分は6g/日未満で、低カリウム食となるよう調理されており、リン制限にも対応できるようになっています。

当院の腎臓病食

エネルギー たんぱく質	1200kcal	1400kcal	1600kcal	1800kcal	2000kcal	2200kcal
40g	○	○	×	×	×	×
50g	×	○	○	○	×	×
60g	×	×	○	○	○	×
70g	×	×	×	○	○	○

○は当院で用意している食種



名大病院透析食のメニュー紹介



鮭のマヨネーズ焼き



今回紹介するメニューは鮭のマヨネーズ焼きです。味付けには塩分の少ないマヨネーズを使用し、玉葱や椎茸など風味のある食材を使用することで、薄味でもおいしく食べることができる一品です。

分量(1人分 117kcal)

- 紅鮭..... 50g
- 玉葱..... 30g
- 生椎茸..... 10g
- マヨネーズ..... 5g
- 食塩..... 0.2g
- 黒こしょう..... 0.01g

※栄養量：エネルギー量117kcal、たんぱく質11.9g、脂質6.1g、炭水化物3.4g、食塩相当量0.3g(透析食たんぱく質60g1800kcalの場合)

作り方

- (1) 玉葱、生椎茸は薄切りにし下茹でしておく。
- (2) (1)にマヨネーズ、食塩、黒こしょうを混ぜる。
- (3) 紅鮭50gを表面の色が変わるまで焼く。
- (4) (2)を(3)に乗せ、中に火が通るまで焼く。



■ミニニュース
「コンサート」を開催しました。
中央診療棟A 2階ピアノ広場にて、11月13日(水)に「チームSオケ」の方々による「はーとワンダフルコンサート」を開催しました。
エレクトーンとピアノにより、馴染みのある曲を多く演奏していただき、皆さんと共に、楽しいひとときを過ごしました。



病院からのお知らせ 提案書からの改善報告

本院では、患者さんへのサービス・アメニティー等の満足度向上を目指し、患者満足度委員会において、院内に設置してある提案箱へ投函いただいたご意見からのサービス改善策を検討し実施しています。提案箱では、現在1ヶ月あたり約100件のご提案をいただき、提案書を回収次第、患者さんのご意見の速やかな検討を現場で図るとともに、その後委員会にて、いただいた提案書を一件一件検討することで、サービス向上に努めています。サービス改善における主な内容については、外来棟1階中央待合ホールに設置されているモニターへの掲示により、患者さんへの回答を行っています。

患者さんが利用する設備や機器などは、日々における点検や更新を実施しておりますが、2019年度上半期では、以下の改善を実施しました。

- 〈院内における主な設備面の改善〉
- 1) 正面玄関にある車椅子を20台更新、ベビーカーを5台更新、歩行器を10台購入。
 - 2) 外来棟1階に業務用FAXを2台導入。



この度、令和元年9月1日付で名古屋大学医学部附属病院呼吸器外科長/教授を拝命いたしました。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。
呼吸器外科は、肺・縦隔・胸膜といった心臓を除く胸部に発生する、良性疾患から悪性疾患(がん)までを扱う診療科です。技術をもった外科医として様々な側面から患者さんと向き合い、「誠実に患者さんを診る、

呼吸器外科長/教授 芳川 豊史

治す」をモットーに、診療科を挙げて最新かつ最良で優しい医療を提供することに努めていく所存であります。皆さまには、今後とも一層のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



禁煙のお願い

患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力のお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。詳細は、ホームページまたは外来棟各階に置かれているパンフレットをご覧ください。
URL: <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/>

QRコードでもアクセスできます!



中央診療棟Bのご紹介
外来化学療法室

日常生活を大切にしながら 外来通院で、がん治療を。



の朝は多職種によるカンファレンスなど、当日の診療に必要に応じて、薬剤師や看護師が処方せんやカルテを確認し、必要に応じて化学療法部の医師が各診療科の主治医と薬の投与量などを相談。当日の朝は多職種によるカンファレンスなど、当日の診療に必要に応じて、薬剤師や看護師が処方せんやカルテを確認し、必要に応じて化学療法部の医師が各診療科の主治医と薬の投与量などを相談。

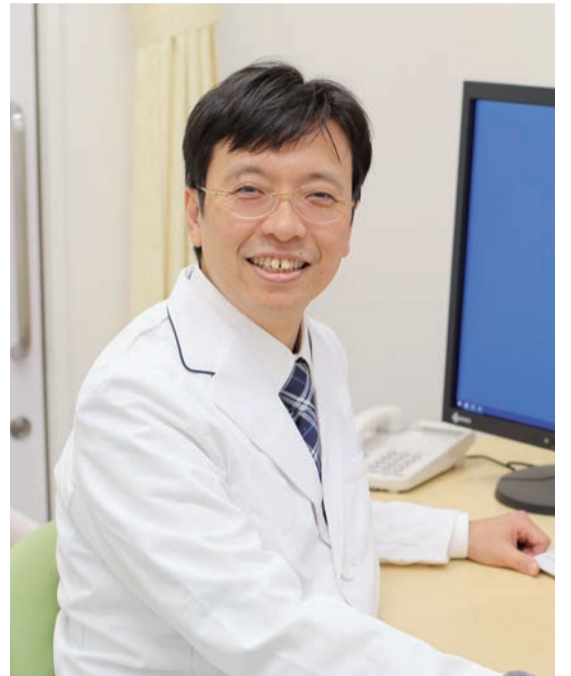
各診療科と連携して
治療を実施

従来、抗がん剤の治療という入院して行うのが一般的でした。しかし、薬物療法の急速な進展により、抗がん剤治療の場は入院から外来へとシフトしています。当院では2006年から外来化学療法室を開設し、多様ながんに対して外来で抗がん剤治療を行っています。外来化学療法室では各診療科と連携し、多職種によるチームで治療にあたっています。患者さんの来院前に薬剤師や看護師が処方せんやカルテを確認し、必要に応じて化学療法部の医師が各診療科の主治医と薬の投与量などを相談。当日の朝は多職種によるカンファレンスなど、当日の診療に必要に応じて、薬剤師や看護師が処方せんやカルテを確認し、必要に応じて化学療法部の医師が各診療科の主治医と薬の投与量などを相談。

これまでの生活を続けながらの
治療も可能

外来化学療法室では、がん治療を受ける患者さんには、各診療科での診察の後、外来化学療法室での問診を経て、リクライニングチェアやベッドで点滴や注射を受けていただきます。抗がん剤治療は30分で終わるものもあれば5時間かかるものもあり、治療中の快適性も重要です。そのため中央診療棟Bの移転時に面積や席数を拡充し、できるだけリラクセスしてお過ごしいただけるよう環境を整備しました。患者さんはベッドに備え付けのテレビを見たり、食事をしながら治療を受けることができます。当院では多くの小児科の患者さんも治療を受けています。

また、外来通院のメリットは、これまでの仕事や家庭生活などを継続しながら治療を受けられる点にあります。もちろん病状によって難しい場合もありますが、中には点滴を受



がん薬物療法を専門とする外来化学療法室。中央診療棟Bに移転し、さらに規模が拡充しました。化学療法部の前田修病院講師に、施設の特長や患者さんのメリットなどを伺いました。

けたその足で会社に向かわれる患者さんもいらっしゃるほどです。外来化学療法室では医師と看護師による緩和ケアチームを置き、がんによる緩和ケアチームを置き、がんによる心とからだのさまざまな症状を和らげる治療も行っています。必要があれば患者さんの状態に適したケアを行い、より豊かな生活を送ることができるようサポートしています。

高度化・複雑化する抗がん剤治療
に対応

現在、分子標的薬や免疫療法薬などがんの治療薬は多岐にわたっています。これまでの抗がん剤が効かなかった患者さんに使える新しい薬が開発されるなど、対象となる疾患も広がっています。ただ、それに伴って副作用もさまざまなものが出てきており、そのコントロールも重要となっています。このように抗がん剤治療がより高度に複雑化し、薬に対する深く広い知識が必要となる中、当院の外来化学療法室の役割はますます大きくなっています。今後も各診療科と連携しながら多様ながんに対応し、常に患者さんお一人おひとりに最善の治療を提供していきます。

令和元年度鶴舞公開講座を開催

令和元年12月7日（土）、中央診療棟A3階講堂において、令和元年度鶴舞公開講座を開催しました。同講座は、平成17年度から医学部と附属病院が共催で年1回開催しているもので、社会的に関心が高く、日常で役立つ話題をテーマとしています。今年度は、「自分の力で元気に過ごす～健康管理と医療サポートの活用～」と題し、「健康長寿のための上手な食事の食べ方」「睡眠から考える健康習慣」「医者まかせにいませんか？—賢い患者になるために必要な知識—」「薬剤師が伝えたい薬との上手な付き合い方」の4つの講演を行いました。いずれの講演でも、講演者が時折ユーモアを交えてわかりやすく紹介し、和やかな雰囲気の中、受講者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。

当日は、リピーターを数多く含む20代から90代の幅広い年齢層約220名が受講し、受講者からは、大変参考になった、来年以降もぜひ参加したいという声が多数聞かれました。



救命に欠かせない胸骨圧迫と AED

健康講座

救急科長 後藤 縁

「目の前で人が倒れた…」そんなことが起きないに越したことはないのですが、実際には突然の心停止（心臓が止まってしまう状態）によって毎年12万人以上が救急搬送されます。心停止を予防するための様々な対策がなされ、集中治療も進歩していますが、救命に最も必要なことは、一刻も早い電気ショック（除細動）と心臓マッサージ（胸骨圧迫）です。

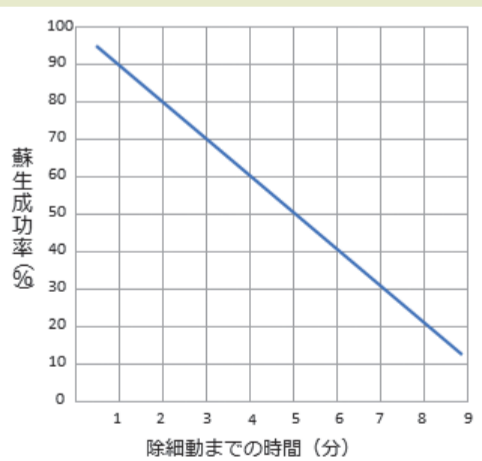


図1 心室細動から除細動までの時間と蘇生成功率

呼びかけに反応がなく、正常な呼吸をしていない人は、心停止の可能性があります。すぐに助け（救急車）を呼ぶのと同時に、一般の方でも、ためらわず直ちに、強く速く、絶え間ない心臓マッサージを行うことが強く勧められています。

また、病院外での心停止は、心室細動（心臓が細かく震える）という不整脈から生じることが多く、この治療には迅速な電気ショックが必要です。電気ショックが1分遅れるごとに救命率は7～10%ずつ下がります（図1）。そこで活躍するのがAED（自動体外式除細動器）です。AEDは駅や人が沢山集まる場所に設置されています（図2）。この機械は、電気ショックが必要かどうか自動的に判断し、一般の方がAEDを使用することで救命率が約2倍高まります。

消防署や都道府県の赤十字支部では、心肺蘇生やAEDの使い方に関する一般の方向けの講習を定期的に行っています。皆さんの協力が患者さんの救命に繋がります。



図2 AED

ボランティアさん募集

当院ではボランティアさんを募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

- ボランティアホームページ
<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/recruit/volunteer/>
「名大病院 ボランティア」で検索♪

